新開小だより

～太陽のように　ひまわりのように～

学校教育目標
かしこい子
心ゆたかな子
たくましい子

令和6年度9月号
児童数　400 人

2学期も更新！

「みんなちがって　みんないい」
「どの子もみんな一分の一」と「幸せづくり」

校長　　八代　剛

今年の夏は、4年に一度の平和の祭典パリオリンピックが開催され、本日早朝（日本時間）よりパラリンピックも開催されています。このオリンピック・パラリンピックは、地球上のすべての人々が多様性・・・人種や信教や肌の色、性別や障がいによって差別されることなくまたは分け隔てなく楽しむことができるものであると確信しています。

さて、このパリ五輪ですが、日本では時差により午後から深夜にかけてさまざまな種目がライブ映像で放送されていました。そこには、たくさんの壁を乗り越えたライバルとの交流があり、勝敗以上の心温まる場面を見ることができ、日本人選手の活躍や、アスリートたちの努力と活躍に感動しました。

その中でも一番印象に残った種目が東京五輪から新たに登場したスケートボードです。ストリートとパークという2種類の種目があります。時間帯がたまたま合ったということもあり、深夜にも関わらず、テレビ画面に食い入って見てしまいました。このスケートボードの種目が、他の競技とは違うなと感じたところがありました。それは、選手の服装（見た目）とか、年齢層とか、そういったところもありますが、一番強く感じたのは、1本1本の競技（ここではランというそうです）を終えるたびに、他国の選手と共に喜び、悲しみ、感情を共有しているところです。日本の選手もそうですが、他国の選手もお互いにランを決め終わると抱き合いながら笑顔でその選手の喜びを分かち合っている姿を何度も見ました。女子ストリートの東京五輪で金メダルを取り連覇を目指した四十住さくら選手は、予選10位で惜しくも決勝に残れなかったのですが**「最後まであきらめたくないけど、でも人の失敗は祈りたくない。」**とコメントしていました。自己ベストを更新するため自分自身と競い合い、他者を尊敬し、その競技をほめたたえながらメダルを目指すスケートボードの精神はそこにあるのかなと思いました。

学校現場ではこのことをどのように考えればよいのでしょうか。

多様性という言葉は、最近よく耳にし、教育現場でも大切にしている言葉ですが、その意味は、広辞苑によると「いろいろ異なるさま。異なるものの多いさま。」と載っています。つまり、**学校でいうと、学級などの集団において性別、価値観、家庭環境等が異なるさまざまな子供たちが共存しながら、お互いの考え方の違いに気付き、それをお互いに認め合うということ**だと思います。まさにオリンピック・パラリンピックの精神に通じるものがあるのではないでしょうか。

2学期がいよいよ始まります。長い学期ではありますが、行事等もある中で、**「みんなちがって、みんないい」**のように、お互いの良さや価値観を認め合い、励まし合いながら、かしこく、心ゆたかに、たくましく成長してくれることを願っています。

【林間学校に行ってきました】

7月25日26日の2日間に5年生が埼玉県立大滝げんきプラザまで林間学校に行ってきました。天気に左右される活動がある中でも、子供たちは元気いっぱい過ごすことができました。保護者の皆様にはご準備等ご協力をいただきありがとうございました。